

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2015年 第40週 （9月28日～10月4日）

## ★お知らせ

### ○手足口病に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第39週の3.03から第40週は2.63とほぼ横ばいです。高知市、中央東、中央西では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。

この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患であり、2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。

学童以上の年齢層の大半はすでにこれらのウイルスの感染（不顕性感染も含む）を受けている場合が多いので、成人の発症はあまり見られません。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができ、時に肘、膝、臀部などにも出現します。

まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

感染は、飛沫、経口及び接触感染です。感染者との密接な接触を避け、手洗いをしっかりとしましょう。

回復後にも2～4週間の長期にわたり便の中にウイルスが排出されることがありますので、日頃からしっかりとした手洗いが大切です。

### ○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第39週の0.80から第40週では1.53と増加しています。幡多、安芸、中央西、中央東で増加しています。全国では過去5年間の同時期と比較してかなり高い値が続いており、引き続き注意が必要です。

通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多くなります。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

### ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第39週の1.03から第40週では1.20とほぼ横ばいですが、高知市、中央西、幡多では増加しています。

毎年この時期からノロウイルスなどの感染性胃腸炎の報告数が増えてきます。この病気は腹痛、下痢、嘔吐、発熱を主な症状とし、冬場に流行する代表的な感染症です。特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。予防法で最も大切なのは手洗いです。排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

### ○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第40週は基幹定点から4例、定点医療機関からのホット情報では8例報告がありました。

好発年齢は、6～12歳の小児であり、小児では発生頻度の高い感染症の一つです。潜伏期は2～3週間とされ、飛沫で感染します。異型肺炎像を呈することが多いです。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。

感染症予防の基本は、

★☆☆手洗いから★☆☆

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減  
 40週（9月28日～10月4日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	→	2.63	高知市、中央東、中央西では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	1.53	幡多、安芸、中央西、中央東で増加しています。
RSウイルス感染症	→	1.47	中央西、幡多で増加しています。
感染性胃腸炎	→	1.20	高知市、中央西、幡多で増加しています。
突発性発疹	↗	0.37	高知市、安芸、中央東で増加しています。

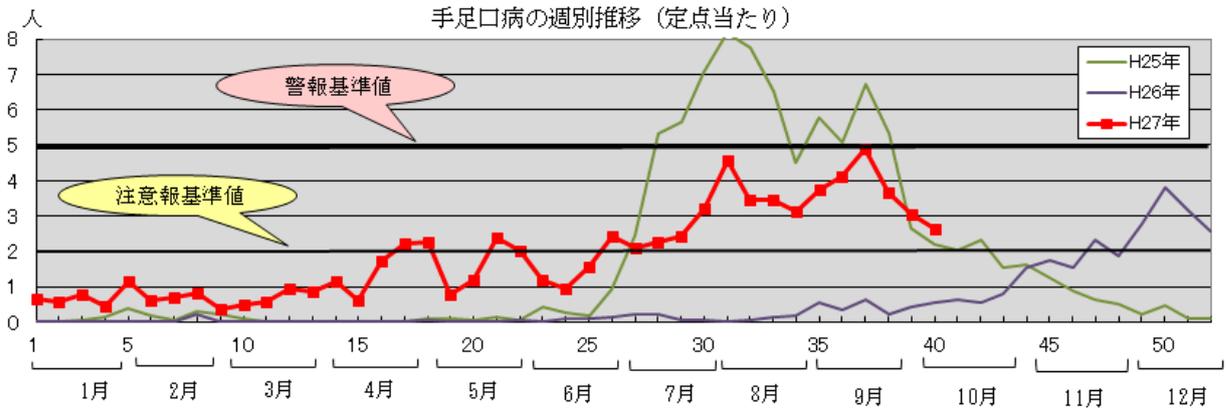
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

○手足口病： **2.63** (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり第40週2.63(前週3.03※)とほぼ横ばいです。高知市、中央東、中央西では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。



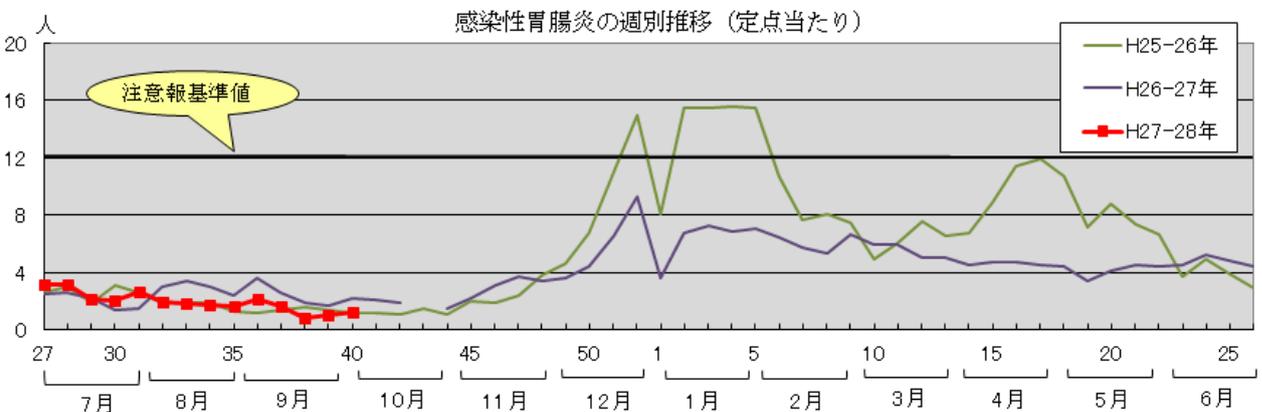
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎： **1.53** (注意報値：4.00 警報：8.00)

定点医療機関からの報告は定点当たり1.53(前週0.80※)と増加しています。地域別にみると、幡多3.80(前週0.20※)、安芸1.00(前週0.50※)、中央西1.00(前週0.33※)、中央東0.43(前週0.14※)で増加しています。



○感染性胃腸炎： **1.20** (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.20(前週：1.03※)とほぼ横ばいです。地域別にみると、高知市1.55(前週1.45※)、中央西1.33(前週0.33※)、幡多0.60(前週0.00※)で増加しています。



※第39週は大型連休と重なっており、報告対象期間のうち、平日は2日のみとなるため、報告数が減少しています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
40	急性肺炎	0ヶ月	男	高知市	Respiratory syncytial virus A
40	不明熱	1	男	中央東	Respiratory syncytial virus A
40	RSV肺炎	1	男	中央東	Respiratory syncytial virus A

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
37	下気道炎 RSV疑い	2ヶ月	男	幡多	Rhinovirus
38	手足口病	13	女	高知市	Coxsackievirus A6
38	手足口病	4ヶ月	男	中央東	Coxsackievirus A6
38	手足口病	2	男	須崎	Coxsackievirus A6
38	EB疑い	8ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A6
38	不明熱	0ヶ月	男	中央東	Coxsackievirus A9

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	16	90歳代(女)	高知市
		1	17	70歳代(女)	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター腸炎 4例 (4歳男、5歳男、7歳男、17歳男)
		病原性大腸菌 0-1 腸炎 1例 (7歳男)
		マイコプラズマ肺炎 4例 (5歳女、11歳女、13歳男、14歳男)
		アデノウイルス扁桃炎 2例 (3歳男、5歳女)
	国立病院機構高知病院小児科	RS ウイルス 2件については、他院にて陽性。当院に紹介された。
高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 2例 (3ヶ月女、11ヶ月男)	
	病原性大腸菌 4例 (0ヶ月女、0ヶ月男2人、13歳女)	
中央西	くぼたこどもクリニック	感染性胃腸炎 2例 (8歳女:須崎市、9歳女:須崎市)
	日高クリニック	マイコプラズマ肺炎 3例 (4歳女、9歳男、12歳女)
		アデノウイルス扁桃炎 1例 (7ヶ月男)
幡多	さたけ小児科	ヘルペス歯肉口内炎 1例 (2歳女)
		マイコプラズマ 1例 (6ヶ月女)

★全国情報

第37週 (9/7~9/13)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核370例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症131例

4類感染症：E型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病1例、デング熱9例、日本紅斑熱5例、日本脳炎1例、マラリア3例、レジオネラ症54例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症32例、急性脳炎3例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群17例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性肺炎球菌感染症12例、水痘(入院例に限る)4例、梅毒46例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、風しん2例

報告遅れ：E型肝炎1例、つつが虫病1例、デング熱1例、日本紅斑熱3例、レプトスピラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、水痘(入院例に限る)4例、種性クリプトコックス症4例

## 注目すべき感染症

### ◆ RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス（respiratory syncytial virus：RSV）を病原体とする乳幼児に多い急性呼吸器感染症である。潜伏期は2～8日、典型的には4～6日とされている。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%がRSウイルスの初感染を受けるが、初感染によって終生免疫は獲得されない。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状の出現後、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現する場合が多いとされる。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%がRSウイルス感染症であるとされる。また、新生児や生後6カ月以内の乳児、免疫不全者およびダウン症児等は重症化しやすい傾向がある。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症は、インフルエンザとおおよそ同頻度で肺炎の合併が認められることも明らかになっている。

RSウイルス感染症が重症化した場合、酸素投与、輸液、呼吸器管理などの対症療法が主となる。また、早産児、慢性肺疾患や先天性心疾患等を持つハイリスク児を対象に、RSウイルス感染の重症化予防のため、ヒト化抗RSV-F蛋白単クローン抗体であるパリビズマブの適応が認められている。

我が国の感染症発生動向調査において、RSウイルス感染症は全国約3,000の小児科定点から報告される5類感染症である。届出機関の医師により症状や所見からRSウイルス感染症が疑われ、かつ検査診断がなされた者が対象となる。成人における本疾患の動向は評価が困難である。

RSウイルス感染症は、例年、季節性インフルエンザに先行して、夏頃より始まり秋に入ると患者数が急増し、年末をピークに春まで流行が続くことが多い。また、流行開始時期は、九州が他地域よりも早く、南・西日本から東日本へと流行が推移する傾向にある。亜熱帯地域の沖縄県は他県と異なり夏期にピークを持つ。

2015年も8月下旬から患者報告数が増加し始め、9月より過去数シーズンと同様に報告数が増加している。2015年第37週（2015年9月7～13日：9月16日現在）の患者報告数は2,652例で前週（2,083例）と比べて増加した。地域別における報告数上位3位の都道府県は、第28週から第32週までは沖縄県・鹿児島県・福岡県であったが、第33週は福岡県・鹿児島県・山口県、第34週は福岡県・鹿児島県・宮崎県、第35週は福岡県・鹿児島県・東京都、第36・37週は福岡県・東京都・大阪府となっており、例年同様、南・西日本から東日本へ流行が推移している。

2015年第1週から第37週までの累積報告数を年齢群別に集計すると、0歳が43%と最も多く、次に1歳が34%と続いた。3歳以下が全体の95%、5歳以下が99%を占めた。性別は男性が54%と女性に比べてやや多かった。この年齢分布・性差は過去数シーズンと同様である。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品等を介した接触感染が主なものである。特に、家族内では、上述した感染経路が重複するため、RSウイルスが伝播しやすいことも報告されている。よって、家族内にハイリスクグループ（乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者）が存在する場合、重症例が生じやすいため、適切な飛沫感染や接触感染に対する感染予防策を講じることが重要である。飛沫感染対策としてのマスク着用や咳エチケット、接触感染対策としての手洗いや手指衛生といった基本的な対策を徹底することが求められる。現在のところ、2015年の報告数は過去数シーズンと比較して同程度であると思われる。したがって、今後、冬にかけて報告数が増加することが予想されるとともに、流行に地域差が見られることも予想されるため、本疾患の発生動向を注視する必要がある。

---

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第40週 平成27年9月28日(月)～平成27年10月4日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第40週							計	前週	全国(39週)	高知県(40週末累計) H26/12/29～H27/10/4	全国(39週末累計) H26/12/29～H27/9/27
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								( )	1 ( 0.02)	239 ( 0.05)	15,334 ( 319.46)	1,151,165 ( 234.17)	
小児科	咽頭結核熱			3					3 ( 0.10)	( )	562 ( 0.18)	135 ( 4.50)	53,251 ( 16.96)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	3	19	3			19	46 ( 1.53)	24 ( 0.80)	2,954 ( 0.94)	2,295 ( 76.50)	293,764 ( 93.56)	
	感染性胃腸炎	1	11	17	4			3	36 ( 1.20)	31 ( 1.03)	6,324 ( 2.01)	5,055 ( 168.50)	704,279 ( 224.29)	
	水痘	1	1	2	1			3	8 ( 0.27)	12 ( 0.40)	770 ( 0.25)	438 ( 14.60)	53,916 ( 17.17)	
	手足口病	1	21	47	7			3	79 ( 2.63)	91 ( 3.03)	7,562 ( 2.41)	2,307 ( 76.90)	353,216 ( 112.49)	
	伝染性紅斑	1	1	3					5 ( 0.17)	6 ( 0.20)	923 ( 0.29)	148 ( 4.93)	72,309 ( 23.03)	
	突発性発疹	1	3	6				1	11 ( 0.37)	9 ( 0.30)	1,090 ( 0.35)	529 ( 17.63)	64,503 ( 20.54)	
	百日咳								( )	( )	38 ( 0.01)	12 ( 0.40)	1,943 ( 0.62)	
	ヘルパンギーナ		1	4	3	1	1		10 ( 0.33)	6 ( 0.20)	1,079 ( 0.34)	937 ( 31.23)	93,635 ( 29.82)	
	流行性耳下腺炎			7					7 ( 0.23)	9 ( 0.30)	1,427 ( 0.45)	630 ( 21.00)	50,135 ( 15.97)	
	RSウイルス感染症		6	18	10			10	44 ( 1.47)	43 ( 1.43)	1,997 ( 0.64)	755 ( 25.17)	46,360 ( 14.76)	
	眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	7 ( 0.01)	( )	359 ( 0.52)
流行性角結膜炎									( )	( )	579 ( 0.84)	14 ( 4.67)	16,898 ( 24.67)	
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	12 ( 0.03)	7 ( 0.88)	326 ( 0.68)	
	無菌性髄膜炎								( )	( )	18 ( 0.04)	12 ( 1.50)	787 ( 1.65)	
	マイコプラズマ肺炎			2				2	4 ( 0.50)	2 ( 0.25)	237 ( 0.50)	233 ( 29.13)	5,538 ( 11.63)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								( )	( )	5 ( 0.01)	37 ( 4.63)	262 ( 0.55)	
	感染性胃腸炎								( )	( )	2 ( )	67 ( 8.38)	4,004 ( 8.41)	
計 (小児科定点当たり人数)	7 ( 3.50)	50 ( 7.14)	125 ( 11.19)	28 ( 9.32)	1 ( 0.50)	42 ( 8.00)	253 ( 8.30)			25,825	28,945 ( 760.82)	2,966,650		
前週 (小児科定点当たり人数)	7 ( 3.50)	58 ( 8.15)	130 ( 11.78)	16 ( 5.32)	1 ( 0.50)	22 ( 4.20)		234 ( 7.71)						

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第40週							計	前週	全国(39週)	高知県(40週末累計) H26/12/29～H27/10/4	全国(39週末累計) H26/12/29～H27/9/27
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ									0.02	0.05	319.46	234.17	
小児科	咽頭結核熱			0.43						0.10		0.18	16.96	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.43	1.73	1.00			3.80	1.53	0.80	0.94	76.50	93.56	
	感染性胃腸炎	0.50	1.57	1.55	1.33			0.60	1.20	1.03	2.01	168.50	224.29	
	水痘	0.50	0.14	0.18	0.33			0.60	0.27	0.40	0.25	14.60	17.17	
	手足口病	0.50	3.00	4.27	2.33			0.60	2.63	3.03	2.41	76.90	112.49	
	伝染性紅斑	0.50	0.14	0.27					0.17	0.20	0.29	4.93	23.03	
	突発性発疹	0.50	0.43	0.55				0.20	0.37	0.30	0.35	17.63	20.54	
	百日咳										0.01	0.40	0.62	
	ヘルパンギーナ		0.14	0.36	1.00	0.50	0.20		0.33	0.20	0.34	31.23	29.82	
	流行性耳下腺炎			0.64					0.23	0.30	0.45	21.00	15.97	
	RSウイルス感染症		0.86	1.64	3.33		2.00		1.47	1.43	0.64	25.17	14.76	
	眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.52
流行性角結膜炎											0.84	4.67	24.67	
基幹	細菌性髄膜炎										0.03	0.88	0.68	
	無菌性髄膜炎										0.04	1.50	1.65	
	マイコプラズマ肺炎			0.40				2.00	0.50	0.25	0.50	29.13	11.63	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										0.01	4.63	0.55	
	感染性胃腸炎											8.38	8.41	
計 (小児科定点当たり人数)	3.50	7.14	11.19	9.32	0.50	8.00	8.30				760.82			
前週 (小児科定点当たり人数)	3.50	8.15	11.78	5.32	0.50	4.20			7.71					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869